

重点となる具体の学校経営目標（1） 【学力向上】								
1人1台端末をより効果的に利用して「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」をはぐくむために「主体的で対話的で深い学び」に繋がる授業に進化させる。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
教務課	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力の育成を軸として、より質の高い授業が行えるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTやコミュニケーション能力の育成につながるような研修会をおこなう。 公開授業週間を企画し、コミュニケーション能力の育成を推進し、教科横断で授業の改善を図れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校教員の研修会への参加率が70%以上(R05 62%)となる。 アンケートで「コミュニケーション能力の育成を意識した授業が行えたか」が、90%以上(R05 85%)となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、「生成 AI」についての研修会を12月に実施する予定で計画を進めている。 「コミュニケーション能力の育成」については、様々な場面で教職員及び生徒へも周知している。また、4年目ということで学校全体において意識は広がりつつあると考えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果、校内外を含めて86%が「参加した」と回答。校外への研修会への参加は38%が「参加した」と回答。 アンケートの結果、95%の教員がコミュニケーション能力の育成を意識した授業が行えたと回答。共通の目標としての教員が意識して取り組んだと考える。 	A	A
進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着とコミュニケーション能力を向上させ、自ら目標を設定して主体的に深い学びに向かう力と最後までやり遂げる力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実力考査の事前・事後指導、小論文指導を行い、生徒の学習意欲を高める。 就職、進学に関する補習と模試、面談を実施し、基礎学力の定着と応用力、コミュニケーション力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年の進路実力考査（2回目）で、国数英 GTZ を各学年で B ゾーン以上を30% (R05 1・2年平均38.3%)以上、Dゾーンを15% (R05 1・2年平均9.6%)未滿にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目（4月）の結果は、Bゾーン以上が1年生72.5%（昨年63.8%）、2年生31.2%（昨年32.8%）。Dゾーンが1年生3.4%（昨年1.3%）、2年生9.1%（昨年22.0%）であった。2回目（10月）に下降しないよう各教科や学年団と連携し、適切な時期に事前学習教材を渡し、学力向上に取り組みたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路実力考査（2回目）の結果、Bゾーン以上1年：61.3%、2年：28.4% Dゾーン以下1年：2.8%、2年：11.5%であった。特に、1年生は、ここ数年にないレベルの高さを維持している。次年度以降も学力向上に努めたい。 	B	B
図書視聴覚課	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」のみならず、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力、人間性」を育むために、生徒に読書と図書館利用を勧める。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動を活性化し、校内での企画・展示などの充実を図る。 広報誌の内容を工夫し、生徒・保護者への広報活動を活発に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間貸出 0冊の生徒が全体の5%(R05 17.7%)を下回っている。生徒1人あたりの図書貸出冊数平均8冊以上のクラス数が全体の65%(R05 41.7%)、全校生徒の年間総貸出冊数が9,000冊(R05 8,364冊)を超えている。 広報誌や掲示板などを用いた生徒・保護者への広報が10回(R05 15回)を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸出冊数0冊の生徒が6.4%。 1人平均8冊以上を達成したクラスは12.5%、8月末の総貸出冊数は4191冊(1年1169冊・2年829冊・3年2193冊)。9000冊の目標に向けて、全教職員の声かけが必要である。 生徒向け広報紙を6回発行したり、図書委員や保護者に呼びかけ、時事川柳創作や「推し本」の紹介を行ったりした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の年間貸出0冊の生徒が全体の2% (R05 17.8%)、生徒1人あたりの貸出冊数平均8冊以上のクラスは全体の25% (R05 42%)であった。総貸出冊数6,919冊 (R05 7,480冊)となった。利用者は増加しているため、継続的な利用へと繋げる工夫が求められる。 広報誌、図書館だよりなどを13回 (R05 15回)発行したり、保護者に時事川柳創作に協力していただいたりと広報活動を積極的に行った。 	B	B
情報デジタル室	<ul style="list-style-type: none"> 校内におけるICT環境整備の推進において、GIGAスクール構想の下で整備された生徒1人1台端末の積極的な活用等を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> Google Workspace のフォームを使い健康観察、カレンダーの活用を図る。 Google Workspace の活用を各教科と連携を図り、運用面の推進を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> HR、講演会などの日常の業務、教科指導等において、Google Workspace を活用している教員の割合が100% (R05 100%)になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の端末を配布。全員に対して利用法、利用マナー等のオリエンテーション資料をもとに行った。 文化祭、体育祭、始業式、外部講師の講演など、日常的にGoogle Workspace を活用できている。 システム更新にも室全員で対応できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日常の校務では、Classroom を活用して、クラスへの連絡事項の伝達、欠席連絡フォームを活用して出欠、遅刻の確認を行った。 教科指導においては、教材提示、講演会のリモート配信を行い、すべての教員がGoogle Workspace の活用を行った。 	B	B
商業科	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末をより効果的に活用し、小学科の特長ある学びを主体的に判断し、行動し、さまざまな問題を解決できる人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ科目担当者間の教材・情報の共有をし、チームで指導にあたる。 積極的に資格取得に挑戦できるよう日々の授業を充実させていく。 ビジネスコンテストへの参加など学びの進化に繋がる取り組みを実践する。 1人1台端末の効果的な活用方法を研究し、効率的な運用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査の「高度な資格取得や全国レベルの競技大会に挑戦」の項目の回答が「よく当てはまる」「やや当てはまる」が90%以上(R05 97%)になる。 全商1級3種目以上合格者が100名(50%) (R05 112名 58%)以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度岡山県高等学校職業教育技術顕彰（前期）の被顕彰者は88名。(昨年度末98名) 全商1級3種目以上合格者が増えるよう、教科指導を工夫する。(昨年度末112名) 生徒商業研究発表大会では中国大会で最優秀賞を受賞し、全国大会への出場が決まった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査の「高度な資格取得や検定受験、全国レベルの競技大会に挑戦」の項目の回答が「よく当てはまる」「やや当てはまる」が96%であった。(R05 97%) 全商1級3種目以上合格106名 54.4% (R05 112名 58%)、岡山県高等学校職業教育技術顕彰対象者108名 55.4% (R05 114名 59%)。 	B	B
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 全学年一人一台端末を活用して、家庭学科の専門的な知識や技術の習得と対話的な学習活動が効果的にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebook や天井カメラシステムを積極的に活用しながら知識や技術の習得につながる授業を行う。また、グループ活動を通して、コミュニケーション能力の育成ができる主体的・対話的な授業になるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科のアンケートの「社会人基礎力が身についた」とする回答、学校評価調査の専門学科で特色ある学習を行い、実際に社会で必要とされる力を身に付けている」の回答が共に90% (R05 95.5%)以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習や課題提出などはChromebook を可能な限り活用するよう工夫している。 学習内容において実習室では動画を流したり天井カメラシステムや実物提示装置を使って示範をしたりしている。生徒からは、「先生の手元が見えてわかりやすい」、「動画を見ながら一人で作業を進めることができよう」との前向きな意見がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学科アンケートにおいて「社会人基礎力が身に付いた」とする割合が、96.2% (3学年平均)となった。また学校評価アンケートにおいても92%となった。Chromebook や大型提示装置などの情報機器を活用することで個々の学習支援になっていると実感した。 調理実習や調べ学習などのグループ活動の回数を増やすことで、積極的に声掛けができるようになった。 	B	B
1年団	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習実態調査、提出物の回収、面接指導や遅刻などの声かけを通して、生活習慣を確立するサポートを行い、生徒の自己肯定感を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習実態調査で、平均学習時間が90分以上になる。(R05 2学期73分) 	<ul style="list-style-type: none"> 学習実態調査で、平均学習時間が79分のため評価はB。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習実態調査で、平均学習時間が79分のため評価はB。3学期は検定の補習期間であったが、補習を除く平均時間が92分と、学年でも過回比較においても良い結果であった。 	A	A

重点となる具体の学校経営目標（2） 【徳育推進】								
礼儀・マナーに関する指導を充実させる。また、人間関係構築力、規範意識及び人権意識を育み、いじめや暴力は絶対に許さない生徒を育てる。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
総務課	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動を通して、視野を広げるとともに社会性を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動の意義を理解させるために、生徒対象のガイダンスや研修会を企画し開催する。 学年・学科・部（同好会）・委員会などの単位で、社会貢献活動の機会を多く設け、生徒が積極的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に社会貢献活動の参加者が2,500名（R05 1,793名 1月31日時点）を超える。 学校評価調査、で社会貢献活動の肯定者が90%（R05 98%）を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月20日現在（報告済分）の社会貢献活動参加延数は1476名（1年566名、2年403名、3年507名）である。ここまでは順調にきている。今年も岡山マラソンのボランティアに例年以上に申し込みがある。その他の校外での活動も活発である。今後もしっかり呼びかけていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1月31日現在（報告済分）の社会貢献活動参加延数は2,492名（1年844名、2年806名、3年842名）で昨年同時期より大幅に増えた。3年生は3年間で5回の社会貢献活動はほぼ達成できた。 学校評価アンケートでは生徒は98%が肯定的にとらえている。（保護者86% 教職員100%） 	B	B
生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 校内外において礼儀・マナーに関する指導を充実させる。また、人間関係構築力、規範意識及び人権意識を育み、いじめや暴力は絶対許さない生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校門指導や交通指導を通してマナーの向上を図る。 制服着こなしガイドを活用し、生徒・教職員が共通理解できるようにする。 生徒が相談しやすい環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車の安全利用、交通安全意識の向上が90%（R05 90%）以上になる。 外部からの苦情電話の件数が12件（R05 15件）以下になる。 生活アンケートや学校評価調査の中で大きな問題がなく、人間関係構築力や人権意識の向上がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通に関する苦情が10件（9/10 現在）あり、その都度注意、指導を行っている。指導を継続的に行い、マナーの向上に努めたい。 生徒間の人間関係のトラブルに対して、担任、学年団、部顧問、生徒課等で可能な限り相談しながら対応に当たった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 交通自治委員会が月に一度、各学年で交通日より「アゴラ」を発行したり、交通標語の募集や交通ポスターの掲示をして交通マナー向上の啓発活動を行った。また、風紀委員・誠友会が中心となって朝のあいさつ運動を実施し、あいさつする側とされる側の両方を体験することで、礼儀やマナーを身につけることの一助となったと思われる。また、部活動単位でも朝のあいさつ運動に参加しているため、自然なあいさつを身に付けることができています。 学校評価アンケートでは、礼儀やマナーを身につけ、規則を守ることに90%以上となっており、規範意識の育成はなされているが、交通ルールに関する外部からの苦情が15件（1/27 現在）、商業施設や飲食店等でのマナーに関する苦情が8件（1/27 現在）あり、今後も継続的な指導が必要である。 生活アンケートを学期ごと3回実施。大きないじめにつながるトラブルはないが人間関係の構築が難しく、心が安定せず、日常的に不安を抱えている生徒が存在する。 	B	B
人権・教育相談室	<ul style="list-style-type: none"> LHR・総合学習において、より効果的な人権教育の推進に努めるとともに、教職員研修の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権・教育相談講演会（1年）（5月） 人権・性教育講演会（2年）（1月） 主権者教育LHR（3年）（10月） 主権者教育LHR（2年）（7月） 人権・教育相談教員研修（7月） 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会の感想・アンケートによる生徒の人権意識向上が80%（R05 80%）以上になる。 教職員のアンケートによる研修の充実度が80%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、1年、2年の講演会ともにたいへん好評で、ほぼ全員の生徒が人権に対する意識が向上したと答えている。 SCによるカウンセリングに関する教員研修を行った後のアンケートで、約80%の先生が、生徒面談で生かせると答えている。またSCによる教員研修を受けたいと答えた先生も約80%に上っており、充実した研修だったといえる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 講演会の感想・アンケートによるとほぼ生徒全員が、人権意識が向上したと答えており、人権に対する意識が向上したと考えられる。 カウンセリングに関する教員研修を行ったことにより、以前より一層一人ひとりの生徒に適切な生徒面談が行えており、SCの相談に一層スムーズにつなげることができるようになったといえる。 	A	A

重点となる具体の学校経営目標（3） 【グローバル人材育成】								
SDGsの視点を生かしたグローバル人材の育成に向け、積極的に国際交流行事に参加させたり、日本文化に触れさせるとともに、文化的行事や文化部の活動を通じて豊かな感性を養う。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
総務課	<ul style="list-style-type: none"> 種々の活動を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、広い視野を持ち、異文化を理解する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際経済科においては、イングリッシュチャレンジ、異文化理解講演会を中心としつつ、他の取り組みにも積極的に参加させる。 その他の学科においては、ホームステイ、岡大留学生との交流等で積極的に国際交流行事の参加を呼び掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査で肯定的な生徒を70%（R05 74%）以上とする。 国際経済科においてはアンケートによって満足度が高い生徒が80%とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年もオーストラリア（ケアンズ）で実施した。（9日間）参加者は1、2年10名であった。 昨年に引き続き4月～1月の予定でドイツから1名留学生を受け入れている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の職員会議で承認されたオーストラリアとの新たな姉妹校に向けては、今年度は具体的な進捗はなかったが、来年度以降引き続き姉妹校締結に向けて模索していく。 上海陸行中学との姉妹校の契約は終了しているが、2025年夏に来校してもらい交流を行うことを協議していく。 	B	B

重点となる具体の学校経営目標（4） 【心身の健康】
 授業や学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、健康教育・保健指導・教育相談機能を充実させて心身ともに健全な生徒を育成する。

課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、心身ともに健全な生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、委員会活動、部活動に生徒が主体的に取り組める環境を作る。 他の課や教育相談室との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率が90% (R05 87.8%)以上になる。 誠友会行事、クラス活動、部活動、学校行事等に対する満足度・達成度が90% (R05 86%)以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月時点の部活動加入率は89.5%であった。 県大会上位に入ったり、全国大会・中国大会に出場したりする部が多数あり、部活動は活発に行われている。 飛翔祭に向け学校全体で取り組むことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率は89.5%で、昨年度よりは増加しており、達成基準には達していないが、運動部文化部ともに全国大会に出場するなど活発に活動している。また、大きな大会に出場できなくても、多くの部活動で積極的に取り組んでいる姿が見られた。 学校評価アンケートでは、南高の学校生活に満足している生徒は79%で、昨年より下がっており、生徒の意見を取り入れながらより主体的に取り組めるように検討が必要である。また、個人の役割が十分発揮され、充実感を味わわせることのできるような工夫が必要である。さらに学校生活が充実したものとなるために、教員間で連携し、生徒とのコミュニケーションを図りながら南校生として誇りや自信が持てるようにしていきたい。 	B	B
保健厚生課	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健康で、主体的に健康管理ができる生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間の活動テーマを決めて、生徒保健委員会と協力し、保健活動を推進していく。 保健日より作成の際に年間テーマに沿った内容を取り上げる。 保健委員による各クラスでの保健指導の充実を図る。 受診した生徒の受診報告書を提出させ、受診率を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会活動への生徒保健委員の満足度が95% (R05 90%)を超える。 保健日より学期に1回以上発行し、生徒の自主的な健康管理を促す。 不定期に昼食時放送などで、保健衛生について生徒委員に発信の場を設ける。 各種受診率が98% (R05 95%)を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会活動については、オンライン集会時のVTR放映やお昼休みの放送により健康管理を推進する放送を継続的に実施中。食事に関するカロリー摂取について飛翔祭で発表・取り組みを実施することができた。 各種受診率の向上を図るため、クラス担任だけでなく部顧問からの指導も依頼して全校の受診率100%を目指した声かけ対策に取り組んでいる。 HR棟を中心に緊急連絡用インターフォンを増設し、緊急時の対応が迅速かつ適正にできるよう設置した。 継続的に保健便りを発行し、健康管理を推進している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会活動が年間を通して活発に行われ、自作の動画で全校生徒へ働きかけや、啓蒙活動を行うことができた。生徒保健委員も活動に95%を超える満足度を表していた。 12月に開催された、岡山県医師会の感染症予防講習会では、大変有意義な実践に向けての話を聞くことができた。1月に開催された保健員会では年間の活動成果を発表し、各種受診率が100%に近い成果を上げることができた。 保健日より、継続的に発行し健康管理の推進の大きな力となった。 	A	A
人権教育 相談室	<ul style="list-style-type: none"> 問題を抱えた生徒の早期発見、対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談室・学年団会議、心の健康相談後の連絡会等を活用し、生徒情報の収集・交換に努める。 「ストレスチェック(悩みに関するアンケート)」等を有効活用し、生徒へのきめ細かい声かけを行う。 SC・SSW・校医等の専門家や関係機関と連携し、支援・対応にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査の「心のケア」に関する項目において、「よく当てはまる」「やや当てはまる」の生徒の回答が85% (R05 90%)、教員の回答が90% (R05 98%)を超える。 SCにつなぐ前に室の教員で生徒面談を行える体制をつくり、担任へ周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画や生徒情報一覧の活用がかなり定着し、適切に支援できている。 先生方の適切な声かけにより、1年生の早い時期からSCにつなげることができた生徒が増加した。 SSWとの連携が早い段階からスムーズにできており、学年での共通理解が図られる生徒が増加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査の結果は、生徒が87%、教員が98%となり、ともに達成基準を満たしている。 昨年コロナがら類になり、人間関係に関する悩みを抱える生徒数が高止まりしている。近年SC・SSW・精神科医への相談件数が増加し、今年度はほぼ昨年度並みの約135人となり、中でもSCへの相談件数が増加した。 SCとSSWと精神科医間の連携が必要なケースでは、適切に連携を図れるようきめ細かく対応した。 	B	B
1年団	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習実態調査、提出物の回収、面接指導や遅刻などの声かけを通して、生活習慣を確立するサポートを行い、生徒の自己肯定感を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻が年間360回以内になる。 (R05 延べ428名) 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻が170回(8月末)で、月30回平均として、5か月時点で150回を上回っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻が457回(12月末)で、学年の目標値を大幅に上回っている。目標を達成できたクラスは1つであった。学年を通して年間20回以上の遅刻者が4名、10回以上の遅刻者が6名であった。 	B	B
2年団	<ul style="list-style-type: none"> 授業や学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、心身ともに健全な生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛翔祭や球技大会等で、クラスの取り組みを重点的に行う。 修学旅行において、生徒が主体的にグループで活動できるよう、計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査で「自分は、南高の学校生活に満足している」の項目で90%以上 (R05 87.4%)の生徒が肯定的な評価になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学園祭では、各クラス合唱の舞台に向けて前向きに努力する姿がみられた。 修学旅行の準備・計画を修学旅行委員の生徒にも活躍の場を設けながら、話し合いを行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査で「自分は、南高の学校生活に満足している」の項目で79%が肯定的な回答となり、目標達成には至らなかった。しかし、学園祭の合唱はどのクラスも協力して取り組むことができた。 修学旅行について事後アンケートの結果、91.6%の生徒が「満足した」と回答しており、よい研修の機会とすることができた。 	B	B

3年団	<ul style="list-style-type: none"> 授業や学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、心身ともに健全な生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学園祭や球技大会等でのクラスの取り組みを行う。 課題研究や卒業制作展でグループ活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査で「南高では、学校行事や部活動に自主的・主体的に取り組む指導が行われている」の項目で90% (R05 95.7%)以上の生徒が肯定的な評価になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学園祭では、夏休みに登校し、各クラスやブロックで工夫を凝らした取り組みがなされている。 課題研究での取り組みを活かした発表ができるように、それぞれが話し合い活動内容を決めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学園祭や卒業制作展等の学校行事で、グループごとによく話し合い、工夫を凝らした取り組みをすることができた。 学校評価アンケートで「南高では、学校行事や部活動に自主的・主体的に取り組む指導が行われている」の項目で93.8%の生徒が肯定的な評価であった。 	B	B
-----	--	--	--	--	---	--	---	---

令和6年度 学校経営に係る重点目標・具体的計画・達成基準・評価（中間・最終・外部）

岡山県立岡山南高等学校

NO5

重点となる具体の学校経営目標（5） 【進路指導】								
LHR・インターンシップ・企業訪問・校外実習等のキャリア教育全般を通して、望ましい勤労観、職業観を育んだ上で、生徒一人一人の個性や希望に沿った進路を実現する。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
進路指導 課	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を通して、生徒一人一人の個性や希望に沿った進路を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路LHR、総合的な探究の時間を通じて、生徒の進路意識を向上させる。 質の高い集会と講話で、専門性を活かした望ましい勤労観、職業観を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者の1次内定率90% (R05 100%)以上、最終内定率を100%にする。 進学希望者のうち国公立大学の合格者数を商業学科25名 (R05 25名)、家庭学科3名 (R05 2名)以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識向上のため2学期に2年生は、進路説明会（学部研究等）と講演会、1年生は企業ガイダンスと講演会を実施予定である。 3年民間就職希望者38名は、SPIと一般常識の朝学習、面接指導に取り組んでいる。進学希望者は、小論文個別指導、進学補習など個々の受験に向け準備している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 民間企業就職希望者38名全員が合格内定した。公務員は2名合格した。 国公立大学に商業学科27名、家庭学科1名が合格した。 	B	B
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 学科の特性を活かし、生徒の個性や希望に沿った進路決定ができるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次から、生徒の進路希望状況を共有し、早期から教員間の共通理解・連携を図る。 専門科目の学びをいかした自身の強みを発見することができるよう、社会貢献活動等への参加を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末の3年生学科アンケートにおいて、「納得する進路決定ができた」とする回答が90% (R05 97.3%)以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回開催している家庭科会議において、家庭学科の生徒全員の情報交換を行っている。 家庭学科3年生は、これまでの学びを生かした進路実現を目指して努力している。 小学校でのミシン指導や保育施設での夏のボランティア活動などに参加することで、学科の学びを進路決定にいかすことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の学科アンケートにおいて「納得する進路決定ができたか」という問いに対し、「できた」、「概ねできた」の肯定的解答が98.1%となり、納得のいく進路先を決定して卒業を迎えることができた。 家庭学科での学びを最大限に生かすことができる社会貢献活動を行うことができた。 	A	A
2年団	<ul style="list-style-type: none"> LHR、校外学習等のキャリア教育全般を通して、望ましい勤労観、職業観を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」において、グループや個人で探究活動を行わせる。 オープンキャンパスやインターンシップに積極的に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査で「南高では、多様な学習活動や体験を通して進路指導が行われている」の項目で90%以上 (R05 92.0%)の生徒が肯定的な評価になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」において、グループでの探究活動に意欲的に取り組むことができ、他グループの発表を聞き、互いに評価し合うことができた。 オープンキャンパスやインターンシップに参加し、進路希望先について具体的に考えることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査で「南校では、多様な学習活動や体験を通して進路指導が行われている」の項目で91%の生徒が肯定的な評価となり、目標達成できた。 「総合的な探究の時間」では、グループや個人で探究活動に意欲的に取り組むことができた。進路希望についてもオープンキャンパスやインターンシップなどを通し、具体的に考えることができた。 	B	B
3年団	<ul style="list-style-type: none"> LHR・校外学習等のキャリア教育全般を通して、職業観を育んだ上で、生徒一人一人の個性や希望に沿った進路を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会や面談を通して、職業観や勤労観などの進路実現に必要な力を育む。 オープンキャンパスや企業の就職前研修に参加し、学問・職業調べを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査で「南高では、個々の生徒に応じた、進路指導が行われている」の項目で90% (R05 90.6%)以上の生徒が肯定的な評価になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会で自己表現の方法（話し方・文章表現の方法）を身につけた。面談を行い、進路実現に必要な力を意識させた。 各自の進路希望に合わせて、オープンキャンパスや職場見学に参加し、学問・職業調べを行い、進路選択の参考にしている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 講演会、オープンキャンパスや職場見学等の活動を通して、進路選択の参考にし、第一希望でなくても、生徒一人一人の個性や希望に沿った進路を決定することができた。 学校評価アンケートで「南高では、個々の生徒に応じた、進路指導が行われている」の項目で、85.9%の生徒が肯定的な評価であった。 	B	B

重点となる具体の学校経営目標（6）【カリキュラム・マネジメント】

現行の学習指導要領実施を受けて、地域や企業、大学等との連携・協働を進めるとともに、教科横断的な視点に立ち、「コミュニケーション能力の育成」を教職員の共通目標として定め、教科指導、特別活動、学校行事、部活動など本校のすべての教育活動を通して、その育成を目指す。

課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
教務課	・コミュニケーション能力の育成を軸として、より質の高い授業が行えるよう支援する。	・授業評価アンケートを活用し、指導方法の改善の一助とする。 ・保護者への公開授業の活性化を図る。	・学校評価調査の「南高では、教え方が工夫され、わかりやすい授業がこなわれているか」が、 80%以上 (R05 80%) になる。 ・昨年度より保護者の公開授業への参加数が増える。 (R05 57名)	・5月27日～6月14日に授業公開週間を設定し、1学期末には授業評価アンケートを実施し、指導技術の向上を目指した。アンケートについては回答率が 67.5% であったため、後期ではより高い回答率を目指したい。 ・本年度は、参加数増加を目指し、保護者宛て文書及び39メールでの広報を行う予定である。	B	・学校評価アンケートの結果、肯定的意見は、生徒は 83% (R05 86%)、保護者は 83% (R05 82%)、教員 86% (R04 82%)と回答。ほぼ横ばいの結果となったが、概ね 80% ラインを超えている。 ・保護者の公開授業への参加数は、昨年度 57名 から今年度 49名 と 8名減 となった。今年度は案内文書配布に加え、39メールを利用して呼びかけを行ったが、減少に転じた。次年度については引き続き呼びかけを行う。	B	B
図書視聴 覚課	・生徒の探究的な活動の支援を行い、コミュニケーション能力の基盤となる自学能力や情報活用スキルの育成を図る。	・図書資料、視聴覚資料、インターネットなど多様なメディアの資料の収集・整理・保存し、その提供を適宜行う。 ・情報活用スキルの習得の支援を行う。	・授業に関連して、図書に関する講座や展示を年間 10回以上 (R05 講座10回) 行っている。 ・NIEを活用し、新聞スクラップによる展示を年間 10回以上 (R05 8回) 行っている。	・「総探」で、進路課・2年団と連携し、年間計画の作成を行い、地域の課題を知るための特別講座を担当して、外部講師を招聘した授業を行った。 ・NIE 掲示板上に図書委員が5月から毎朝新聞 7紙 を紹介し、気になる記事にコメントを付けて発表している。全校生徒の新聞感想文コンクールへの応募を教科との連携で進めている。	B	・新聞記者を招聘した授業、NIE 掲示板での情報活用の方法等に関する展示を 12回 (R05 10回) 行った。また、日常的にも様々な教科で新聞を活用した授業が頻繁に行われた。 ・5月から毎朝新聞 7紙 を生徒のコメント付きで紹介し、新聞感想文コンクールに全校で応募するなど、NIE を推進した。優秀なNIE 実践として、社説やコラムで取り上げられ、コンクールでは 2部門 で優秀賞（ 県2位 ）を受賞した。	A	A
商業科	・新学習指導要領の実施を受け、地域や企業、大学等との連携・協働を進め、教科横断的な視点に立ち、全ての教育活動を通してコミュニケーション能力の育成を目指す。	・小学科の特長が発揮できるような教育課程編成の研究および、改善案を検討していく。 ・様々な場面において、コミュニケーション能力の育成に繋がる授業実践の方法を研究する。	・専門科目の学習内容を、カリキュラム・マネジメントの視点で検討し、小学科の特長を確立する。 ・学科アンケートでコミュニケーション能力が身についた・やや身についたと答えた生徒が 80%以上 (R05 86.8%) になる。	・新学習指導要領の完成年を受け、令和8年度入学生の教育課程の見直しを検討している。各小学科の特長を生かしながら、生徒の実態に応じたカリキュラム・マネジメントを継続して審議していく。 ・各科目で、生徒のコミュニケーション能力が身についたと、実感できるような場面を授業内で工夫しながら実践していく。	B	・新学習指導要領の完成年度を受け、令和8年度入学生の教育課程の見直しを行い、小学科の特長を生かしながら、資格取得や進路保障を見据えたものが完成した。一人一台端末の活用についても全学年が利用できる環境が整い、さらなる活用法を研究していく。 ・学科アンケートでコミュニケーション能力が身についた・やや身についたと答えた生徒が、 90.9% (R05 86.8%) であった。	B	B

重点となる具体の学校経営目標（7） 【安心・安全】

交通安全及び防災に関する啓発を行うとともに、万が一の災害発生時に迅速で適切な対応がとれるよう関係機関との連携を深める。また、安全で安心な学校であるよう施設、設備の美化、点検補修及び更新を進める。

課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
保健 厚生課	・校内美化の徹底を図る。 ・防災意識の高揚と危機管理の徹底を図る。	・美化委員会の活動でクラスチェックを月1回実施して、集約したものを報告し、美化意識向上に努める。 ・校内全体の整備を図り、清掃用具汚破損の更新や消耗品の補充を行う。 ・抜き打ちの防災訓練の実施をおこなう。 ・AED シミュレーション研修・エピペン使用研修を開催する。	・美化委員会チェックで、全クラス中で清掃不備クラスが毎回 5クラス 以内になる。 ・教員による清掃場所の点検報告を 毎月 行い、報告結果をまとめる。 ・全生徒、教職員の防災訓練避難完了 8分以内 (R05 7分40秒) をめざす（体育館・運動場）。 ・教職員の研修者が 100% になる。	・校内美化チェックが定着し、クラス美化委員が活発にチェックを行うようになった。教員による危険箇所のチェックを毎月実施し、それぞれの清掃監督場所を様々な立場からチェックしていただき、美化と汚破損に対応している。 ・美化必要消耗品棚を活用し、利便性を図った。 ・9月に防災避難訓練を実施予定であったが、台風接近で延期され12月に実施する予定。今回は、津波対応の避難を想定して行いたい。平素より生徒に対して、冷静な行動と状況判断ができるよう指導を継続する。 ・AED 研修を実施、またエピペン研修を開催して、教職員に緊急対応のシミュレーションを体験していただいた。	B	・校内美化チェックを毎月実施し、改善箇所や危険箇所のチェックをすることができた。 ・防災訓練では、今回津波を想定した訓練を行い、高所へ逃げるルートの確認や非常持参携帯物の確認を行うことができた。（参考値 7分45秒 ）課題として、地震後の津波到来までの時間がある場合、どのように生徒の安全を確保すべきか教員の研修を開催する必要があるということが分かった。 ・AED 研修・エピペン研修は新任者も含めほぼ 100% 教職員が実習を行うことができた	A	A

重点となる具体の学校経営目標（8） 【今後の方向】

学科の在り方や商業・家庭両学科の有機的な結びつきに関する研究をより進める。志願者を増やすために小学科の特徴を、より効果的に中学生に向けてPRしていく。

課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
総務課	<ul style="list-style-type: none"> 中学校や地域との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールや卒業制作展、学校説明会などで、学校の様子や学科の特色、卒業後の進路が中学生や地域の方にわかりやすく伝わるように工夫する。 担当教員に加え、生徒の広報組織を通して、中学校や地域に積極的に情報公開をするとともに、連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールの参加人数が7月と9月、10月を合わせて 1,500名 (R05 1,625名) を超える。 卒業制作展の来校者が 1,000名 (R05 863名) を超える。 担当教員の中学校訪問を年間 1回 以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月中学生 851名 保護者 232名 計 1,083名。 9月中学生申込 144名 (台風のため中止) 担当者による中学校訪問を6月に実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 7月中学生 851名 保護者 232名 計 1,083名 9月台風のため中止 10月中学生 367名 保護者 143名 計 510名 担当者による中学校訪問を6月に実施した。 卒業制作展の来校数は 842名 ライブ視聴数は 1,206名 だった。 生徒広報委員による母校訪問も予定通り実施できた。 	B	B
商業科	<ul style="list-style-type: none"> 小学科の特徴や商業・家庭両学科の有機的な結びつきに関する研究をより進め、効果的に中学生にPRしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通教科や家庭学科との連携により、教科横断的な視点で、魅力ある学びの方法を考えていく。 小学科の特徴について、専門科の教員が中心となり、中学校訪問やオープンスクール・HPなどでPRしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究や卒業制作展など家庭学科と連携し、互いの学びの成果となるような取り組みを実践する。 商業科教員が組織的に、中学校訪問やHP、YouTubeやインスタなどのICTを活用し、積極的に情報発信を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も両学科の課題研究や卒業制作展で連携できるのであれば、積極的に連携していく。コラボ企画も生徒が主体となり進めている。 商業学科の魅力を伝えるために、様々な情報発信手段を活用している。中学校の先生方にも学校訪問や説明会などを通して、周辺校を含め、地道に足を運んでPRしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活躍している姿をブログやYouTubeなどを活用し、リアルな情報を発信している。オープンスクールでは生徒が中心になって活動し、その効果は非常に大きいと感じている。 今年度も各小学科の特長を意識して、課題研究や卒業制作展など、家庭学科とも連携した取り組みも継続して実践することができた。 	B	B
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある学科づくりに向けて、校内外での体験活動を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人講師による授業や近隣の大学や企業等での見学実習、体験活動を積極的に行うことで、魅力ある学科の学びに繋げる。 校内外での学びの様子をブログ等で情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ブログの発信を年間 75件 (R05 88件) 以上することができる。 校外での体験活動を各学年 1回 以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外研修を積極的に行っている(6月2年服飾デザイン科校外研修、7月3年生活創造科マナー講習会など)。今年度は新たに、2年家庭学科で大学見学・企業訪問を実施した。 ブログの発信を 36件 (8月末時点) 行った。昨年度より減少傾向のため、2学期からの発信数を増やしていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2・3年生において学びを深めることができる校外研修を企画・実施することができた。全学年で実施できるように今後も検討したい。 家庭学科の学びの様子を、12月末までに 64件 ブログを通して伝えた。前年度と比較すると減少している。中学生へ向け、より魅力ある学科の活動を伝えられるよう工夫していきたい。 	B	B

重点となる具体の学校経営目標（9） 【働き方改革】								
生徒と向き合う時間を作り出すため、業務の効率化、勤務負担の軽減に取り組み、一方で同僚性の向上を図り、健全な職場環境を構築し、教職員のQOL（生活の質）の向上を図る。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
総務課	<ul style="list-style-type: none"> 業務を整理し仕事の分散化をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル室との連携をはかる。 広報活動は専門科と協力して進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当者が変わった場合もスムーズに仕事が引き継げるよう、データ等を引き続き整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も総務課内の仕事の分担を図っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 総務課が企画係として立案し、先生方の協力を得ながら各行事を行うことができた。 	B	B
教務課	<ul style="list-style-type: none"> より良い協業体制の構築を目指すとともに、業務の軽減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとの年間スケジュールを作成、ヒアリングの実施、過去の日報データの活用、定期的な課会等、課全体の動きを課員全員で把握する。 業務の軽減のため、採点システムを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課員を対象としたアンケートで「仕事の効率化が図れたか」などが、75%以上(R05 71%)となる。また、定期的な課会を開催する。 採点システムの利用率が80%以上(R05 85%)となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課会については1か月に1回、短時間で行うように設定し、課全体での情報共有を図っている。その際、係の仕事の進捗状況が分かりやすいように業務予定表を提示している。また、昨年度のスケジュールデータを活用できるように課員に公開している。 採点システムについては、今後アンケートを実施する予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果、75%が「効率化が図れた」と回答。また、情報共有のために定期的に課会の開催、データの共有化を図った。 また、教員の採点システムの使用率については、92%が使用していることが分かった。また、システムの活用によって採点時間が大幅に短縮されていることがうかがえた。 	A	A
生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 勤務負担の軽減にも取り組みながら、教職員の同僚性の向上を図って健全な職場環境を構築させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課全体で情報共有を積極的に行う。 指導の統一を図り、健全な職場環境を構築する。 時代の変化に応じた指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 月一度の定例会議を開催する。 広く意見を集約し、共通認識を図る。 仕事が偏らず、課全体で協力する。 教職員アンケートによる充実度が70%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定例会議を行うことで、意見交換・共通理解が図られ、係の負担軽減につながり、職員会議をスムーズに迎えることができた。 課全体で協力する体制ができ、仕事の偏りが軽減されるようになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 定例会議をすることで、情報交換を行うことができ、各係が行事等で適切な対応ができた。また、生徒指導等の共通理解も図れ、さまざまな課題に対して機能的に対応できた。会議が長時間に渡ることがあったので、終了時間の設定をするなどしてスムーズに進行できるように工夫する必要がある。各係の役割分担や協力体制ができ、業務の効率化につながった。 	B	B
図書視聴 覚課	<ul style="list-style-type: none"> 学校組織の活性化と業務の効率化に向け、図書館活用における教科間の連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館活用教育や情報活用スキルに関する情報提供を行い、教科間の学習内容を相互に関連づけたり、精選したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の図書館活用教育の概要を年間2回(R05 2回)報告し、全教職員が授業計画や授業内容の見直しを効率よくできるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月には、職員研修としてHPの情報活用に関するリンク集を紹介し、各教科での活用を促した。各教科が探究的な学びを円滑に進めるための支援としたい。 11月には各教科の図書館を活用した授業の概要を伝える広報紙を配付する。教科を越えた情報共有を行うことで、効率よく授業内容の精選ができるようにしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 南高 HP 内の図書館のリンク集について、職員会議等で広報し、情報活用教育活用を推進した。情報活用のための Google のポータルサイトを新設し、利便性を高めた。 年間のまとめとして図書館を活用した授業事例について広報紙を通じて2月に情報発信し、授業開発の手立てとする。 	B	B
保健厚生 課	<ul style="list-style-type: none"> 学校組織の活性化と業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA 各委員会のさらなる活性化を目指し、クラス役員・三役から組織される各種委員会の取り組みの充実を図る。 各種委員会に教員を配置し、学校からの要望や、取り組みの舵取り役を担ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回開催(予定)される PTA 役員会において、4委員会も開催しそれぞれの取り組みを具体化していく。 PTA 役員会の本部役員の出席率が、90% (R05 90%)を超える。 令和6年度の活動成果をまとめて次年度へ送る資料が出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA 活動については、コロナ対策の緩和により多くの保護者に活動の場を提供することができた。学校祭では、PTA主催のバザーを開催し学校行事に参加することができた。 体育館を使用してPTA 総会を開催した。 次回の役員会では、大会議室を使用してPTA 役員が開催できるよう企画中である。同日に各種委員会も開催予定にしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> PTA4委員会の活動を見直す時期を迎え、会長を中心に PTA 役員会の委員会活動について検討がなされた。新年度に向けて新たなる取り組みの準備ができるようにしたい。 PTA 役員会を、本年度3回開催し出席率(委任状を含む)もコロナ禍前に戻った。 	A	A
人権・教育 相談室	<ul style="list-style-type: none"> 適切な業務内容と業務分担を確立し、効率的に業務を行うよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間スケジュールを作成し、室全体で情報共有をより一層積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> SCによるカウンセリング後の連絡報告会がスムーズに進行するよう努め、勤務時間内に終了するようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> SCへ生徒や学校の様子をより具体的に伝達したりすることにより、SCによるカウンセリング後の連絡報告会が一層スムーズに進行できるようになり、ほぼ毎回勤務時間内に終了できるようになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> SCによるカウンセリング前に、担任等から現況についてきめ細かな情報収集を行っていることも影響し、実り多い連絡報告会を開催できており、勤務時間内に終了することが多い。 	A	A